



営農NEWS



ネギのべと病や黒斑病の発生に注意しましょう

ネギの「べと病」や「黒斑病」は、被害残渣とともに越年し、降雨が続いて発病の好適条件になると発生してきます。このため、前年（前作）に多発生した圃場では、発生が多くなる傾向があります。

これら病害の発生が目立ってくるのは5～6月頃からで、べと病は、葉に少しぼやけた紡錘形で大型の黄白色病斑を形成し、その上に薄い灰白色のかびを生じます。本病の発生は、同時期に一斉に見られることが多くあり、急に広範囲のネギ葉で変色が観察されます。その後、病斑はやや暗褐色～紫黒色に変色し、病斑部の周縁はやや明瞭となって葉全体が汚く葉枯れをおこし、激しいと、株全体が枯死してしまうこともあります。

一方、黒斑病は、葉に紡錘形の病斑を形成し、その上に淡黒色のすす状のカビを同心輪紋状に生じます。その後、病斑の上下が長くひし形状に変色し、大きく枯れこみます。なお、べと病の病斑跡に、二次的に黒斑病が発生することが多くあります。

これらの病害は、毎年必ず多発生するというわけではありませんが、ネギ畑では一般的に発生する病害で、梅雨前から梅雨期にかけてと、秋の長雨の時期を中心に、べと病では平均気温が15～20℃とやや低温の場合に、また、黒斑病は24～27℃とやや高温の場合に多発生しやすい傾向があります。

気象の1ヵ月予報（5月8日）によりますと、今後、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は、平年並みまたは低い確率40%、日照時間も平年並みまたは少ない確率40%と、べと病の発生しやすい条件となる恐れがあります。このため、今後の気象予報の変化に注意し、悪天候が続く予報には、防除を必ず実施してください。

べと病は、感染してから潜伏期間5～10日間あり、発病すると急速に広域で蔓延しますし、黒斑病も、多発生してからでは薬剤防除の効果がなかなか上がりにくい病害ですので、発病の好適な気象条件が予想される場合には、薬剤の予防散布や発病初期の防除に努めてください。

<防除のポイント>

- 1) 圃場の排水を良好にし、多肥や肥切れを避けて適切な肥培管理に努めましょう。
- 2) 夏ネギについては、特に収穫前日数に注意して薬剤を選択してください。
- 3) 薬剤防除は発病前または発生初期に重点を置いて、薬液が付着しやすいよう展着剤を加用して行いましょう。
- 4) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行いましょう。

表1 ネギべと病の主な防除薬剤（平成26年5月9日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内
レーバフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
フェスティバルC水和剤	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
フォリオゴールド	800～1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前まで / 3回以内
ペンコゼブ水和剤	600倍	収穫14日前まで / 3回以内
ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内

表2 ネギ黒斑病の主な防除薬剤（平成26年5月9日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内
ペンコゼブ水和剤	600倍	収穫14日前まで / 3回以内
ポリベリン水和剤	1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内
オンリーワンフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
オキシラン水和剤	600倍	収穫14日前まで / 5回以内
ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040